

平成 29 年度 事業報告書

自 平成 29 年 1 月 1 日
至 平成 29 年 12 月 31 日

I	国際交流に関する事項	1 頁～ 3 頁
II	登録に関する事項	4 頁～ 9 頁
III	引退競走馬に関する事項	9 頁～ 10 頁
IV	総務に関する事項	10 頁～ 13 頁

平成29年度 事業報告書

本財団は、競馬に係わる国内外の情報の提供および技術交流、軽種馬の登録ならびに競走を引退した馬（以下「引退競走馬」という。）への助成により、国際相互理解の促進、国内外の軽種馬の改良増殖、公正な流通の促進、競馬に対する信頼の確保および馬の福祉に寄与するため、以下の公益目的事業を実施した。

I 国際交流に関する事項(公益目的事業1)

競馬を通じた国際相互理解の促進や技術向上に寄与するため、国内外の競馬に関する情報の収集・提供や競馬の技術などに関する海外との交流事業を実施した。

1 競馬に関する情報の収集および提供事業

(1) 海外競馬関連情報の収集および国内への提供

海外の競馬および生産などに関する定期刊行物、書籍などから最新の話題やニュースを収集・翻訳・編集してホームページなどにより広く一般に提供した。

- ・海外競馬ニュース（毎週・ホームページ）
- ・海外競馬情報（毎月・ホームページに加え印刷物も配布）

(2) わが国の競馬関連情報の海外への提供

(ア) 海外の競馬関係者や一般市民を対象とし、わが国の競馬および軽種馬

生産などに関する情報の他、関係法令、競馬場、開催日程などの情報を外国語版（英、仏、中、韓）ホームページにより広く一般に提供した。

また、海外からの電子メール・電話などによる各種問合せに対し、迅速に情報を提供した。

(イ) 中央競馬のG 1 レース当日、G 1 レースの他、前後のレースを含めたレースのライブ映像をイギリス、フランス、オーストラリア、ニュージーランド、香港およびドバイに提供した。併せて、アメリカおよびカナダに対して、G 1 レース当日の全 1 2 レースのライブ映像の提供を実施した。

また、これらのレースに関する情報を外国語版ホームページにより広く一般に提供した。

2 競馬の技術などに関する海外との交流事業

(1) 技術研修

(ア) 定期研修

5月29日から6月9日までの12日間、アジア競馬連盟(ARF)加盟国の競馬統括機関および関係機関が公募して推薦する競馬開催執務員を対象とし、わが国の競馬施行および軽種馬生産の全般に関する定期研修を実施した。講師は、わが国の競馬運営および競馬開催に従事する専門家が担当した。

- ・参加者：オーストラリア、香港、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、南アフリカから各1名の計6名

(イ) 専門研修

8月23日から28日までの6日間、アジア競馬連盟加盟国の競馬関係者などを対象とし、裁決業務に関するより高度な専門知識および技術

の向上を図る専門研修を実施した。講師は、我が国の競馬に携わるそれぞれの専門家が担当した。

- ・参加者：オーストラリア、香港、韓国から各1名の計3名

(2) 国際交流行事など

(ア) 人馬の海外遠征を支援するため、海外遠征馬の出馬登録の窓口となり、現地主催者との連絡調整を実施した。また、遠征に係る事務手続きなどの支援も実施した。

3月のドバイワールドカップおよび12月の香港国際競走に際しては、本財団職員を現地に派遣し、現地主催者と日本からの遠征馬関係者との連絡調整を実施した。

(イ) わが国の国際レース取材のために来日する報道関係者に対し、資料・情報の提供、取材援助、滞在・移動などの包括的な支援を実施した。

(3) 中国に関する事業

わが国の競馬に関する知識および技術を活用し、中国におけるサラブレッド血統登録の進展、人材育成、交流を図るための事業を下記のとおり実施した。

- ・6月14日から5日間、わが国において北京市馬術運動協会関係者（3名）を対象とする騎手育成管理に関する研修を実施した。
- ・8月6日から4日間、わが国において中国馬業協会サラブレッド登記管理委員会の職員（2名）を対象とする血統登録に関する研修を実施した。
- ・10月31日から6日間、わが国において中国の馬産業に従事する獣医師（2名）を対象とする獣医技術に関する研修を実施した。
- ・11月29日から3日間、北京において中国牧工商集団および北京市馬術運動協会との共催により、わが国の講師による眼科技術に関する研修を実施した。

Ⅱ 登録に関する事項(公益目的事業2)

国内外における軽種馬の改良増殖や公正な流通を促進するとともに、競馬に対する国民の信頼確保ならびに国際相互理解の促進に寄与することを目的とし、軽種馬の厳正かつ公正な登録および登録情報の国内外への提供などの事業を実施した。

1 軽種馬の登録事業

(1) 血統登録および繁殖登録

(ア) 血統登録および繁殖登録

登録審査業務については、登録規程、登録規程実施基準などに基づいて書類審査および実馬審査を厳正に実施した。

血統登録の申込みは、前年に比較して内国産サラ系統（当歳）は190頭増加した。

繁殖登録の申込みは、前年に比較して血統登録済みのサラ系統の雌馬は104頭増加した。

また、血統登録した馬については、血統登録証明書および馬の健康手帳に貼付される個体確認書を交付し、繁殖登録した馬については、繁殖登録証明書を交付した。

血統登録

区 分	品 種		平成 29 年度 申込頭数	平成 28 年度 申込頭数	増減
内国産馬	サラ系統	当歳	6, 7 9 5	6, 6 0 5	1 9 0
		1 歳	1 6 5	2 0 7	△ 4 2
		計	6, 9 6 0	6, 8 1 2	1 4 8
	アラ系統	当歳	6	1	5
		1 歳	0	0	0
		計	6	1	5
輸入馬			1 5 4	1 4 3	1 1

繁殖登録

区 分	品 種	性	平成 29 年度 申込み頭数	平成 28 年度 申込み頭数	増減
血統登録 済みの馬	サラ系統	雄	3 2	3 2	0
		雌	1, 0 5 6	9 5 2	1 0 4
		計	1, 0 8 8	9 8 4	1 0 4
	アラ系統	雄	1	3	△ 2
		雌	0	1	△ 1
		計	1	4	△ 3
輸入馬	雄		3	2	1
	雌		9 4	1 1 2	△ 1 8
	計		9 7	1 1 4	△ 1 7

(イ) DNA型検査

登録審査で採取した毛根によるDNA型検査を(公財)競走馬理化学研究所に委託し、親子判定および輸入馬、繁殖登録馬(雄)などを対象とした個体識別を実施した。併せて、芦毛の遺伝子検査も実施した。

区 分		平成 29 年度頭数	平成 28 年度頭数	増減
親子判定	サラ系統	6,965	6,814	151
	アラ系統	6	1	5
個体識別	サラ系統	364	367	△3
	アラ系統	1	3	△2
計		7,336	7,185	151

(2) 馬名登録

馬名登録実施基準に基づいて実施した馬名登録は6,811件で、前年に比較して707件減少した。

区 分	審査・登録件数		増減
	平成 29 年度	平成 28 年度	
新規登録	6,547	7,252	△705
馬名変更	139	140	△1
外国競走馬	5	5	0
繁殖登録馬	120	121	△1
計	6,811	7,518	△707

(注記) 平成 28 年度は、競走馬の減価償却の開始時期が早くなった年であり、1歳で馬名登録を申請する件数が増加した。

2 血統登録などの情報の提供事業

(1) 軽種馬の登録情報などの提供

血統および馬名などに関する情報を、ホームページなどにより広く一般に公開した他、競馬主催者団体、軽種馬生産者団体、マスコミなどに提供し、これらの機関の制作物（ホームページ、印刷物など）を通じて国内外に広く公開した。

(2) 血統書の発行

登録した軽種馬を国際基準に基づいて和文血統書（サラブレッド、その

他の品種)、欧文血統書(サラブレッド、アラブ)に随時登載し、ホームページにより広く一般に公開した。

(3) 軽種馬統計などの発行・公開

ライフステージ別の統計データ、輸出入馬などのデータを取りまとめ、「軽種馬統計」を発行した他、統計データをホームページや軽種馬生産者団体の印刷物(JBBA ニュース)を通じ公開し、広く一般に提供した。

3 海外の血統書統括機関との連携事業

(1) 国際血統書委員会(ISBC)への参画

9月25日、英国ニューマーケットにおいて国際血統書委員会の年次会議が開催され、本財団職員がアジア地域代表メンバーとして出席し、国際間の血統書承認に関する案件などを協議した。

(2) アジア・オセアニア血統書委員会(AOSBC)の会議の準備

平成30年5月、韓国のソウルで開催される第14回アジア・オセアニア血統書委員会の会議(第13回まではアジア血統書会議の名称で開催: ISBCの地域再編によりアジア地域とオセアニア地域が合併)の準備作業を実施した。

(3) 軽種馬の輸出入などに関する事務

(ア) 輸出証明書などの交付

軽種馬の輸出入に当たり、国際基準に基づいて当該馬の輸出証明書および馬の個体識別手帳(パスポート)の交付・受領などの業務を、相手国の血統書機関との間で実施した。

(イ) 馬名の承認に関する事務

国際基準に基づいて出生国の承認が必要となる馬名に対しては、当該国との相互の審査によって馬名の登録および変更を承認した。

4 登録事業に関するシステム関係事業

- (1) 電子端末の導入により登録審査業務の標準化、正確性の向上および効率化を図ることを目的とし、前年に引き続きプロトタイプの改善や機能の追加を実施した。なお、平成30年からの実用化を目指していたが、平成29年から一部機能の実用化を実施した。
- (2) 電話などによる問い合わせに速やかに対応するため、繁殖登録原簿照会システム(登録情報や産駒の血統情報などを照会するシステム)を改善した。
- (3) 競馬主催者および生産者団体などとの競馬情報および登録情報の安定した送受信を図るため、システムの管理運用を適切に実施した。

5 その他

(1) マイクロチップ埋込推進

軽種馬へのマイクロチップの埋め込みを推進するため、生産牧場などの飼養者に対して、埋め込みに要した費用の一部を助成した。

(2) 個体識別の技術水準の向上を目的とした研修会などへの講師派遣など

競馬主催者などが実施する技術研修会などに、本財団職員を講師として派遣した。

また、本財団内においても、審査技能の定着向上などを目的とする研修会を開催した。

(ア) 日本中央競馬会の委嘱登録審査委員に対する研修会

(3月14～15日、3月23日)

(イ) 地方競馬全国協会の委嘱登録審査委員に対する研修会

(2月15日、3月22日、4月3日、5月31日、11月7～8日)

(ウ) 日本中央競馬会の職員一般研修

(3月14日)

(エ) 地方競馬全国協会の馬場管理委員に対する特徴照合研修会

(8月25日)

(オ) 本財団の登録審査委員に対する採徴基準研修会

(6月6日、6月28日)

Ⅲ 引退競走馬に関する事項(公益目的事業3)

一般市民に引退競走馬と触れあう機会を提供し、馬の魅力を伝えるとともに、豊かな人間性の涵養と競馬に対する国民の信頼確保に寄与することを目的とし、引退競走馬の繋養展示活動への助成および情報提供などの事業を実施した。

1 引退競走馬の繋養展示活動への助成事業

(1) 繋養展示活動への助成

競走、繁殖、乗馬などの経済活動を終えた高齢の引退競走馬のうち、競走馬として活躍し、競馬の発展に貢献した名馬を繋養展示する所有者に対し、対象馬の飼養費などに係る経費の一部を助成した。

助成対象馬の頭数は、年度当初199頭(継続187頭、新規12頭)で、後期に新規8頭が加わったものの、年度途中で死亡などにより20頭減少した結果、年度末は187頭であった。また、20歳、25歳、30歳を迎えた助成対象馬24頭に対し、特別助成金を交付した。

区分		助成対象馬の頭数			
		平成 29 年度		平成 28 年度	
		前期	後期	前期	後期
中央競馬重賞競走勝馬	継続	170	172	179	183
	新規	12	8	17	6
	計	182	180	196	189
地方競馬ダートグレード競走勝馬	継続	17	17	18	19
	新規	0	0	1	0
	計	17	17	19	19
計		199	197	215	208

前期は1月1日付け、後期は7月1日付けの頭数

(2) 馬名プレートの提供

繋養展示する施設を訪問した一般市民に対し、助成対象馬の情報を分かりやすく伝えるため、展示施設に馬名、血統、毛色、競走成績などを表記したプレートを提供した。

2 引退競走馬の情報提供事業

ホームページやパンフレットにより、引退競走馬の近況や繋養展示する場所などの情報を広く一般に提供した。

IV 総務に関する事項

1 評議員会等の開催状況

(1) 評議員会

回	開催年月日	議 決 事 項	当日の 議員数	当日の 出席数	議決の 結果
1	H29.3.7	①平成28年度事業報告について	9	8	全員賛成
		②平成28年度決算について	9	8	全員賛成
		③公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル役員及び評議員の報酬等の支給に関する	9	8	全員賛成

		る規程の一部改正について			
2	H29. 11. 30	①評議員の選任について	8	8	全員賛成
		②平成30年度事業計画について	9	9	全員賛成
		③平成30年度収支予算について	9	9	全員賛成

(2) 理事会

回	開催年月日	議決事項	当日の 議員数	当日の 出席数	議決の 結果
1	H29.2.20	①平成28年度事業報告について	4	4	全員賛成
		②平成28年度決算について	4	4	全員賛成
		③公益財団法人ジャパン・スタートブック・インターナショナル役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について	4	4	全員賛成
		④公益財団法人ジャパン・スタートブック・インターナショナル職員就業規則の一部改正について	4	4	全員賛成
		⑤第1回評議員会（定時）の開催について	4	4	全員賛成
2	決議の省略 (H29. 11. 6)	①第2回評議員会の開催について	4	4	全員賛成
3	H29. 11. 30	①平成30年度事業計画について	4	4	全員賛成
		②平成30年度収支予算について	4	4	全員賛成
		③公益財団法人ジャパン・スタートブック・インターナショナル職員給与規程の一部改正について	4	4	全員賛成
		④評議員候補者について	4	4	全員賛成

2 評議員に関する事項

評議員（9名）

氏名	就任年月日	退任年月日	備考
岡本金彌	H28.3.15		
鈴木淑子	H28.3.15		
留守悟	H28.12.6		
西村啓二	H28.3.15	H29.9.30	
古屋明	H28.3.15		
益満宏行	H29.11.30		西村氏の後任
町田勝弘	H28.3.15		
本村凌二	H28.3.15		
森保彦	H28.3.15		
山本雅男	H28.3.15		

3 理事・監事に関する事項

役員（理事4名：監事2名）

職名	氏名	勤務	就任年月日	退任年月日	備考
理事長	和田雅雄	常勤	H28.3.15		
常務理事	杉本透	常勤	H28.3.15		
理事	岩元正文	常勤	H28.3.15		
〃	川崎泰彦	非常勤	H28.4.1		
監事	大城清也	非常勤	H28.3.15		
〃	谷崎潤	非常勤	H28.3.15		

4 職員等に関する事項

組織	参与数	職員数	嘱託数	計	備考
総務部		5		5	
経営企画部	1	4		5	
国際業務部	1	6		7	
登録部	1	11	1	13	
北海道事務所		4		4	
計	3	30	1	34	

5 許可、認可及び承認に関する事項

なし

6 登記に関する事項

(1) 評議員の辞任登記	平成 29 年 10 月 4 日	東京都法務局港出張所
(2) 評議員の就任登記	平成 29 年 12 月 13 日	〃

7 助成金及び寄附金に関する事項

(1) 助成金

日本中央競馬会	318,094,977 円
日本中央競馬会（特別振興助成金）	150,172,641 円
地方競馬全国協会	72,314,767 円
（一財）日本中央競馬会弘済会	8,000,000 円
（一社）日本競走馬協会	1,000,000 円

(2) 寄附金

日本馬主協会連合会、（一社）札幌馬主協会、（一社）新潟馬主協会、 （一社）東京馬主協会、（一社）中山馬主協会、（一社）京都馬主協会、 （一社）日本調教師会、日本騎手クラブ、（公社）日本軽種馬協会、 日高軽種馬農業協同組合、胆振軽種馬農業協同組合、十勝軽種馬農業協同組合、 （一財）グリーンチャンネル、（公財）軽種馬育成調教センター、 （公財）競走馬理化学研究所、（公財）中央競馬馬主社会福祉財団、 （公社）日本装削蹄協会、競馬セキュリティサービス株式会社、 JRA システムサービス株式会社、JRA ファシリティーズ株式会社、 株式会社中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム株式会社、 中央競馬馬主相互会、株式会社ノーザンホースパーク、（一社）日本競走馬協会 他	6,761,000 円
--	-------------

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。